



今年もありがとうございます

献血協力者へ卵をプレゼント 国見ライオンズクラブ

国見ライオンズクラブ（佐藤博之会長）は6月14日、国見町役場で町に対して卵を贈呈しました。

贈呈式は町の献血の日に合わせて行われ、佐藤会長から佐藤弘利副町長に卵が手渡されました。町は毎年ライオンズクラブから卵の贈呈を受けており、いただいた卵を献血協力者にプレゼントすることで、献血の啓発に有効活用しています。



試食会は待機列ができるほど大盛況でした

6月は食育月間です！ 「朝ごはんを食べよう大作戦」

6月の食育月間に合わせ、朝食の大切さを啓発するため、「朝ごはんを食べよう大作戦」が6月17日、道の駅国見あつかしの郷で行われました。

試食会では町食生活改善推進員のみなさん手作りの「ごぼうごはん」や「国見産野菜のピクルス」が振る舞われ、来場者からは「レシピを教えてください！」と大好評でした。



みんなできれいに植えました

花と一緒に優しい心を育てましょう 国見小学校で人権の花運動

国見小学校の園芸委員の児童17人が6月22日、人権擁護委員のみなさんと「人権の花運動」に取り組みました。

この運動は、優しい気持ちを持って協力しながら花を育てることで思いやりの心を育てることを目的としており、児童らはマリーゴールドやベゴニアの花苗をプランターに丁寧に植えました。後日、育てた花を町に寄贈する予定です。



ぶどうの摘粒作業を体験

“くにみ流”のおもてなし モニターツアー「くにみしゅらん」開催

町の魅力を体験してもらう「くにみしゅらん」が6月23日から24日にかけて行われ、首都圏の女性16人が参加しました。

初日は奥山家住宅や阿津賀志山防塁を巡って道の駅に宿泊。2日目は高橋一吉さんのぶどう園で農業体験、旧貝田宿「佐野屋」さんでのおもてなし、太々神楽の鑑賞など“国見”を満喫。今回のツアーでもたくさんの「国見ファン」が誕生しました。



会場を魅了する鈴木勝二さん

自慢の歌声を披露 第30回鈴木勝二歌謡教室発表会

第30回鈴木勝二歌謡教室発表会が6月25日、観月台文化センターで行われ、約90人が出演しました。

発表会では県内外から参加した出演者が持前の歌声を披露。スペシャルゲストとして国見町応援大使の市川由紀乃さんも駆けつけ、歌声で会場を盛り上げました。フィナーレでは全員で『いつでも夢を』を歌い、会場は一体感に包まれました。



旧小坂村産業組合石蔵の内部を見学

地域の魅力を再発見 小坂歴史探訪会

小坂まちづくりの会が主催する小坂歴史探訪会が5月28日に行われ、町内外から約100人が参加しました。

探訪会では、昨年「小坂宿まるごと博物館」で連携した福大生の解説のもと、国登録有形文化財「旧小坂村産業組合石蔵」や鳥取福源寺、伊達成宗の墓などを歩いて巡りました。参加者は小坂地区の歴史に触れ、その魅力を再認識していました。



ミスピーチのみなさんと太田町長

今年も福島のみもをPRします ミスピーチキャンペーンクルー来町

2017ミスピーチキャンペーンクルーが5月30日、国見町役場を訪れ、キャンペーン活動開始のあいさつを行いました。

ミスピーチのみなさんは「福島の美味しいももを全国にアピールしていきます」と意気込みを語り、太田久雄国見町長は「道の駅をはじめ、全国各地でトップセールスを予定しています。今年も一緒に頑張りましょう」と激励しました。



太田町長（左）から有功章を授与された佐藤さん（右）

70回の献血に協力 日本赤十字社銀色有功章表彰

献血70回を達成し、日本赤十字社銀色有功章を受章した佐藤代八さんへの有功章伝達式が6月2日、国見町役場で行われ、太田久雄国見町長から表彰状と記念章が手渡されました。

表彰を受け、佐藤さんは「いとこの交通事故をきっかけに献血を始め、50年近くになります。丈夫な体をくれた両親に感謝しながら、できる限り続けたいです」と感謝を述べました。



くにみももたんも協力してくれました

くにみももたんと一緒に 「おいしい水、安全な水」をPR

6月1日から7日までの水道週間に合わせ、太田久雄国見町長と町上下水道課職員は6月5日、道の駅国見あつかしの郷とハシドラッグ国見店で広報活動を行いました。

広報活動には「くにみももたん」も駆けつけ、水道に対する理解と関心を深めてもらおうと、訪れた客にパンフレットや風船を配りながら「おいしい水、安全な水」をPRしました。



奉仕作業に取り組んだ青年部のみなさん

地域のみなさんに感謝を込めて 町商工会青年部が奉仕作業

国見町商工会青年部は「商工会の日」の6月10日、国道4号国見パーキングでゴミ拾いを行いました。

赤坂稔青年部長は「青年部の活動は地域のみなさんに支えられて成り立っているの、日頃の感謝の気持ちを込めて取り組みました」と話し、青年部のみなさんは路肩や植え込みのゴミなどを丁寧に拾っていました。